

第8回 あげお未来創造市民会議 会議録

1. 日 時 令和元年12月20日(金) 9時30分～12時00分

2. 場 所 青少年センター会議室

3. 出席者 委員：飯塚 純 ・伊原広茂 ・大木晴夫 ・大澤サユリ・大塚常司
小川和男 ・小川早枝子・桐原陽子 ・小島 勝 ・小牟田健治
鈴木靖代 ・関本正弘 ・高橋雅之 ・竹村絵里 ・刀根正克
中澤正俊 ・能登 貢 ・本城文夫 ・増田澄雄 ・的場保子
宮田敬生 ・矢島通夫 ・山尾三枝子・山口 直 ・横堀鶴雄

(欠席委員 市倉育江 ・岡部千里 ・河原塚透 ・萩原和也)

事務局：行政経営課野崎課長・本郷副主幹・東海林主任・三浦主任

加計チーム：永澤副主幹 ・鈴木(彰)主任 ・大橋主任 ・鈴木(陽)主任

吉岡主任 ・野澤主任 ・林主任 ・田中主任

細井主任 ・石川主任 ・野間主任

コンサルタント：株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング

4. 次 第

〈第8回あげお未来創造市民会議〉

- 1 開会
- 2 グループ討議
・施策に対する意見検討③（協議分野1の市民/行政の役割）
- 3 その他
- 4 閉会

5. 配付資料 次第

あげお未来創造市民会議～第8回資料～

分野ごとの取組検討シート

分野ごとの役割分担シート

6. 議事概要

〈第8回あげお未来創造市民会議〉

1 開会

委員長：皆さま、おはようございます。本日は、お忙しい中ご出席をいただきましてありがとうございます。これより、第8回あげお未来創造市民会議を始めさせていただきます。はじめに事務局から事務連絡をお願いします。

《事務局から配付資料の確認》

2 グループ討議

《コンサルタントが「あげお未来創造市民会議～第8回資料～」に基づき、前回の議論のあらましや本日の協議テーマ、協議の方法などについて説明》

《5グループに分かれ、各グループの協議テーマにおける「分野ごとの役割分担」について議論し、発表した》

委員：Aグループでは「健康」について議論しました。模造紙では「人」「地域」「まち」に分けておりますが、相互に関連しております。

「人」については「予防」という視点が大切です。「上尾市にいただけで健康になれる」というキーワードを掲げました。市民にできることは、規則正しい生活やフレイル予防など生活習慣病の予防があげられます。これに定年後の健康管理、年代別の健康管理が重要であること、更にセルフチェックをした人にはインセンティブを付け、ポイントが付与される制度を作れば市民の健康意識も高まっていくと思います。また、生活習慣病の予防のために、例えばラジオ体操などに参加した人には「健康マイレージ」が貯まるなどインセンティブを付けることで、市民の健康意識の意識改革のきっかけになると思います。まずは、生活をしているだけで健康に過ごせる仕組みづくりが必要だと考えました。

「地域」のところでは、健康経営が大切になります。グループとしては、主に予防医学の視点で、意見を出し合いました。例えば、社会講座の開催は大きなイベントを企画するよりも、公民館・ショッピングセンターなど小さな場所で開催した方がよい、というような場所の工夫に関する意見がございました。また、地域で健康づくりを進めるリーダーを育成・サポートするような取り組みも必要になります。

「まち」としては、上尾市は健康受診率がそれほど高くないため、健康受診率を高める取り組みが必要だと思います。例えば、企業では社員に対して健康診断が義務付けられておりますが、専業主婦への健康診断の義務化など健康への意識改革、予防に向けた取り組みを進めていければよいと思います。さらに、上尾市健康増進計画と絡めた健康づくり、生活習慣病予備軍の方々への通知やサークル単位での講習等の市民への認知など、まちの中の小さな単位で健康意識を促す取り組みも必要になると思います。例えば、スーパーなどで講座を開催し、参加者には商品を配布するなど、特典を付けて徐々に健康意識を広めていく工夫が必要だと思います。以上のような取り組みを通して、「上尾市に来たら、そこに居るだけで健康になれる」という大きな目標を掲げて、健康への取り組みを進めていけたらと思います。

司会：他のグループの方でAグループへのご意見・ご質問などある方はいらっしゃいますか。

《意見なし》

司 会：続きまして、Bグループの発表をよろしくお願ひします。

委 員：Bグループでは「協働・コミュニティ」について、市民にできること、行政にできることを議論しました。市民活動やコミュニティ支援では、身近な人と交流ができる場を創出するために、市民が集える場を探すことや色々な人と話すということが大事になるという話がございました。行政にできることとして、市民活動やコミュニティ支援の一環として、場所の確保・質の向上、学校や市民活動センターとの連携、財政的な支援が必要などといった意見が出ました。市民活動をするに当たり、市役所への問い合わせ窓口の開設が必要だろうという話がございました。上尾市にある市民団体の連携を図るため、お互いの活動がわかるような情報交換の場所が必要という意見もありました。市民活動を行う上では、担い手の育成も必要になりますので、養成講座の開催も重要になります。また、市民自身がイベントの企画をして、市にも提案できるような場所を設置し連携を図っていく必要もあるかと思ひます。

交流をする中で、多様な世代や外国人を巻き込んでいろいろな人々が交流できるサロンがあることが重要だという話もあり、そのような場所が模造紙右側の「人権」や「男女共同参画」、「平和」の分野にも繋がっていくのではないかと考えました。外国語の表記が当たり前になることや、相手がどのような状態であるか想像力を持って考えることが、市民にも行政にも必要なことだと思います。情報共有にも同じことが言えて、例えば身近な人との日常的な情報共有が災害時にも活かされ、安心できる環境の創出につながると思ひます。上尾市は災害が起りにくい地域と言われておりますが、今回の豪雨災害を踏まえて、市民と一緒に一から考えていく必要があると思ひます。行政の仕事として縦割りではなくて横の繋がりを大切にしてほしいという意見もございました。

最後に、人権についてです。日本はやはり女性の地位が低いと思ひます。それを踏まえて女性が働ける環境の改善や性的少数派への支援など法的整備も必要だと感じております。また、引きこもりの方々の人権については、制度的な整備が必要との意見がございました。世の中に偏見がたくさんある中で、「その人自身が大事にされている感覚」が必要です。また、人権についての教育・啓発をしていく必要があります。具体的には、SNSの使い方を子どもの頃から教育したり、困ったときは相談できる環境があること、皆でSNSについて考える場があることなど、意見がありました。

司 会：他のグループの方でBグループへのご意見・ご質問などある方はいらっしやいますか。

(他グループからの意見)

委員：Bグループは男性と女性の人数が同じで、どのようなお話がでるのか楽しみでした。発表の中で「縦割りではなく横の繋がり」というお話がありましたが、重要な視点だと思います。市民活動をしている方々が相談できる窓口がないというのは問題だと思います。40年ボランティア活動をしてきて、孤独とを感じる機会もありましたが、女性の活躍を進めたい想いで取り組んできました。女性の地位向上を図れば社会のバランスが取れるものと思います。ありがとうございました。

司会：続きまして、Cグループの発表をよろしくお願いします。

委員：Cグループでは「行財政運営」について議論しました。上尾市は、これから若い人を増やしていきたいとのことですが、それは相当難しいと思います。議論の中で、子育て意識の集約という意見がございました。子育て世代のために、公共施設の利用に関する情報発信があります。Bグループでも意見が出たように相談窓口の設置など分かりやすい情報発信が必要だと思います。女性が子どもを育てることが難しい社会なので、もっと力を注ぐべきだと思います。

行政のスリム化についても意見がありました。行政のスリム化が不要という方と、見直しが必要という方々でグループ内の意見が分かれました。方法としては、企業など民間活力の活用をしたり、市の窓口をワンストップ化することで、一つの窓口で行政手続きが完結するなど工夫が必要という意見がございました。さらに、協働（ボランティア）について、ボランティアの今後の活動について考える必要があるなど、市民活動の手を借りて行政のスリム化を行う可能性についても指摘がございました。ボランティア=無償ボランティアという認識も少し違うと思います。これから高齢化社会になり、社会に役立ちたいという女性・男性がいても、財政基盤が無くてはボランティアもできません。個人的には交通費ぐらいは支払いをする等の配慮があってもよろしいかと思います。本当に市民の力を求めているのであれば、市はボランティアの定義をはっきりと明記する必要があると思います。

財政基盤の強化については、工業特区・農業特区をつくる等の意見がありました。財源を増やすことを考えるとまずは成功している市町村の真似をしてみるのもよいのではないかと思います。観光と様々なものを結びつけて、地区内の飲食店との連携や駅前の再開発を行ってはどうかといった意見がありました。また、既存施設の活用については、学校に併設する形で学童施設を造る、体育館を活用する等の意見がありました。農地活用も検討する必要があります。

司会：他のグループの方でCグループへのご意見・ご質問などある方はいらっしゃいますか。

《意見なし》

司 会：続きまして、D グループの発表をよろしく申し上げます。

委 員：D グループでは「防災・防犯・交通安全」について議論しました。議論は5分野にも渡っており、まとめるのは難しいので、一つずつ見ていきたいと思えます。まず「交通安全」について、見守りが大切だという意見がありました。街路灯や消火器のチェックを実際にやっているのでも今後も継続的にやっていく必要があるということでした。行政には交差点や道路整備に取り組んでほしいという要望がありました。また、都市計画道路で事業が止まっている箇所があるので、計画の続行か見直しか決定した方がよいという意見がありました。

2つ目の「防災・危機管理」については、B グループと同じ内容になります。特に、今回の豪雨災害で色々な課題が出てきていると思います。防災マップやハザードマップなど平常時から確認しておく等の市民側の取り組みが大切だろうという意見がありました。同時に、市が情報を分かりやすく伝えるような工夫も必要だと思えます。また、市の職員の防災意識が低いという意見もありました。

3つ目の「消防」について、施設見学を通して市民の消防に関する意識を向上していく必要があるという意見がありました。行政では AED 設置マップのわかりやすい周知や消防団の活動を促進していくような取り組みが必要だという意見がありました。

4つ目の「防犯」では、自転車の放置や盗難など市民の意識改革が必要といった意見や、空き家バンクの活用をもっと増やし、空き家を防犯という側面からも考えて利用方法を検討してほしいといった意見がありました。

5つ目の「消費生活」では、地産地消の話がありました。直売所はもっと分かりやすい場所に設置するといった農協側の努力のみならず、消費者側も情報収集をして地元の野菜を使っていく取り組みが必要との意見がありました。また、海洋プラスチックに代表されるプラスチックごみの削減やリサイクル問題が話題になっていますが、継続的に取り組むことで食品ロスの問題も消費者側から意識を変えていく必要があるとの意見がありました。全体として、横断的な形で取り組む必要があるので、これらに絡めて市民の意識を醸成するための地域交流の場の創出や、そういった場への市民の積極的な参加が求められていると思えます。

司 会：他のグループの方で D グループへのご意見・ご質問などある方はいらっしゃいますか。

《意見なし》

司 会：続きまして、E グループの発表をよろしく申し上げます。

委員：Eグループでは「福祉」について議論しました。「生活福祉」「高齢者福祉」「障害者福祉」の3つに分けてはありますが、これでは線引きができないという前提で、話し合いをしました。まず、全体として市民にできることですが「できる人ができる時にお声がけをする」、見守り活動として「障害者や高齢者の生活を見守り」など、近隣の人の気配りが必要なのではないかという意見がございました。また、地域活動に参加しやすい雰囲気づくり、サークル活動の活性化を進める、公的サービスや福祉について積極的に知るなどが市民にできることとして挙げられました。また、福祉サービスについて認知度向上のため SNS を活用して口コミで情報を広げたり、当事者同士が情報を発信するなどのお話ができました。そのために、組織団体の横の繋がりを支援することが重要とされ、中学校区に一つくらいの相談の場が必要であり、また、福祉相談のワンストップ窓口の開設も必要だろうという意見がありました。また、誰でも気軽に集える地域サロンなど、子どもや高齢者など多世代が気軽に交流できる場所が必要という意見もありました。

このほか、市内全域で活動の支援をして、皆で支え合いながら運営する団体を作り、講座開催ができたらいいのではないかという意見がありました。地域ボランティアの活動が活発になればよいと思います。福祉制度やシステムに関して、どなたが聞いてもわかりやすい言葉で説明をする、広報でお知らせする等の意見もありました。

また最近、話題になっている引きこもりですが、30代～50代にも増えているとのことで、相談窓口の設置や支援を専門で行う担当課や窓口があってもよいと思います。同様に、高齢者や様々な状態の人の就労支援も必要だと思います。また、情報弱者のフォローということで、福祉サービスを知らない人に向けて情報を伝えるためにタウン誌に記事を掲載してお知らせする等の工夫も必要という話が出ました。働き方改革の中で市内の企業にも働きかけをして取り組みを促進していければと思います。

バリアフリーについてですが、障害者の方も外に出やすく活動がしやすいよう整備を進めたり、免許返納をした高齢者が気軽に市内の施設に行けるように循環バスを増やした方がよいという意見もありました。生活福祉に関する市民講座の開設や行政の仕事として就労支援の一部を活用する方法もあるのではという意見がありました。高齢者福祉・障害者福祉で、高齢者と障害者が触れ合う機会をつくってはどうかといった意見もありました。分野で区切らずにそれぞれが情報を共有して、よりよくなればと考えました。

司会：他のグループの方で E グループへのご意見・ご質問などある方はいらっしゃいますか。

《意見なし》

委員長：本日も大変お疲れ様でした。続いて、次第の3「その他」について、事務局から説明をお願いします。

3. その他

《事務局から、第9回会議は1月17日（金）、第10回会議は2月7日（金）の開催を予

定している旨、連絡があった。》

委員長：なにか会議全体を通して、委員の皆さまからご意見はございますか。

委員：第1回目の会議で、10年間の計画に及ぶことを前提に協議してくださいとの説明がありました。社会・経済情勢と自然災害の状況を考えると10年の計画は長期間な気がします。計画期間についてももう少し検討してほしいと思います。

事務局：10年間という期間の設定についてですが、上尾市の将来都市像や理念等の大きいものに関しては、10年後を見据えてご議論いただければと思っております。一方、政策などの細かい計画に関しては5年間を想定しております。今回、皆さまにご議論いただいた施策は5年後を見据えたご意見を頂戴できればと考えております。

委員：配布資料に関するのですが、「分野ごとの取組検討シート」の理想の状態がピンク色の背景に白抜きとなっています。見えづらいので、もっと見やすい表現を検討していただければと思います。

事務局：資料に関しては、頂いたご意見を参考に気をつけたいと思います。

4. 閉会

委員長：そのほか、委員の皆さまからご意見はございますか。なければ、以上をもって第8回あげお未来創造市民会議を終了します。ご協力ありがとうございました。

以上